高島学園
中学校だより【第14号】

令和４年２月２５日
TEL36-0079　FAX36-8012
【文責 校長 内藤 孝】

「小中一貫教育」を再考する　～ 一層のご協力をお願いします。 ～

高島学園においては、その環境から考えて、「小中一貫教育という言葉がなくても、子どものつながり、先生のつながり、学びのつながり、保護者・地域とのつながりが成立しなければならない。」というのが私の持論です。

高島学園に赴任して４年間を終えようとしていますが、その思いは揺るぎません。私の教員人生において、楽しく、そして、意義ある４年間でした。学園長としてのこの思いが、子どもたちや先生、保護者、地域の方々にどれほど伝えられたかは、いささか不安ではありますが、学園の子どもたちの成長を願い、これまで様々な教育活動を進めてきました。

学園の子どもたちの心の中には、「自分は高島学園の児童生徒である。」という思いが潜在していると考えます。したがって、そうであるからこそ、私たち大人が、学園の当事者であらねばなりません。小学校と中学校のあらゆる垣根を下げる、または、乗り越える、または、迂回するための具体的な策を練り上げ、子どもたちの９年間の継続した学びと成長を保障したいと思います。

１月早々に行われた生徒会のリーダー研修会で、新しく役員となった生徒たちに、「高島学園のリーダーたれ」「自分たちの力で高島学園をつくるのだ」と激励と期待の言葉を贈りました。おそらく、その時も、そして、今も、役員の生徒たちは頭を悩ませているだろうと思います。「学園のリーダーとはどういうことだろう」「どんな学園にしたいのか」「よりよい学園とは」「そのために何をすればよいのだろう」「小学生に何をどのように伝えればよいのだろう」「小学生とどのように関わればよいのか」と自問自答しながら、仲間と力を合わせて、きっと何らかのムーブメントを起こしてくれるだろうと大きな期待を寄せています。

小学生には小学生なりの、また、中学生には中学生なりの力があります。それは決して小さなものではありません。したがって、大人は指図や口出しをせず、サポートに徹することで、子どもたちの力は飛躍的に伸びるのではないでしょうか。子どもたちの考えに基づく、子どもたちの自発的な活動、このことが、今後、高島学園の変革の一つになると考えています。

平成２２年に高島学園は開校しました。以来、１２年目を終えようとしていますが、子どもたちにとって、まさに、高島学園が母校となります。結果として、「高島小中学校＝高島学園」という思いが、子どもたちだけでなく、そこに携わるすべての大人に根づくよう、常にモデルチェンジ、バージョンアップを繰り返す必要があります。引き続き、ぜひともご理解とご協力をお願いします。

保護者のみな様へのお願い

現時点では、県内および市内の感染者数が高止まりの状況にあり、幼児児童生徒の感染も確認されていると聞いています。

したがいまして、お子様やご家族、同居の親族に発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状がある場合は、登校を控えさせてくださいますよう改めてお願いします。

また、お子様やご家族、同居の親族に新型コロナウイルス感染症の感染が判明した場合、または、濃厚接触者・接触者と判定された場合には、必ず速やかに学校にご連絡ください。